

Lasius flavus

(Fabricius, 1782)

キイロケアリ

臆病で黄金色の土の住人で、根にすむアブラムシを世話し、古い草地に草に覆われた塚を築きます。



写真：Philipp Hoenle (myrmecophil), CC0 1.0

ひと目でわかる情報



巣の温度

20-25 °C

巣の中



巣の湿度

60-70 %

巣の中



休眠

5-8 °C

10月 - 3月



結婚飛行

7月 - 9月

暑い日、穏やかな天気



働きアリ

2-5 mm

どれも同じ大きさ



女王

7-9 mm

女王は1匹または複数



コロニーの規模

まだデータがありません

成長速度：普通

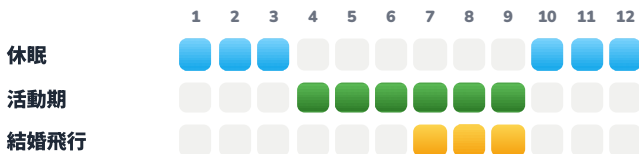


脱走リスク

低い

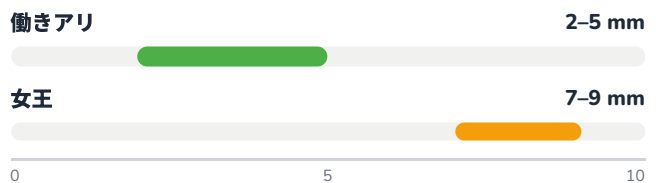
おとなしく、めったに脱走しません

1年をひと目で



月は温帯ヨーロッパと地中海地域の目安です。正確な日は天気で決まるため、お住まいの地域では飛行が早まったり遅れたりすることがあります。

同じ縮尺での大きさ



飼育の早見表

食べ物

砂糖

昆虫

おすすめの巣

- Ytongの巣
- サンドイッチ型の巣
- 自然再現型のセットアップ

この評価の理由

- ✓ おとなしく、めったに脱走しない働きアリ
- ✓ 完全閉鎖型：最初の働きアリが現れるまで、女王に餌は不要です
- ⚠ 冷蔵庫などでの低温の休眠が必要です

飼育者からのメモ

ヒント

野生では、おもに根にすむアブラムシの甘露で暮らしています。コロニーが活動しているあいだは、はちみつや砂糖水を切らず、ブルードのためにショウジョウバエなどの小さくてやわらかい昆虫を加えましょう。

注意

他のLasiusに比べてコロニーの成長はゆっくりです。最初の数年は小さなコロニーのままと考え、創設中の女王アリは試験管の中でそっとしておきましょう。